



2025年11月11日

各 位

会社名 双葉電子工業株式会社
代表者 代表取締役 有馬 資明
社長執行役員
(コード番号 6986 東証プライム)
問合せ先 執行役員 石川 浩士
業務管理本部長
TEL 0475(24)1111

通期連結業績予想の修正、
営業外収益、営業外費用および特別損失の計上に関するお知らせ

2025年5月12日に公表いたしました2026年3月期通期連結業績予想の修正につきまして、下記のとおりお知らせいたします。また、2026年3月期第2四半期（中間期）における営業外収益、営業外費用および特別損失の計上について、併せてお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期通期連結業績予想の修正

(1) 2026年3月期通期連結業績予想数値の修正

(2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 46,000	百万円 △200	百万円 100	百万円 1,600	円 銭 37.72
今回修正予想 (B)	42,800	△1,600	△1,000	1,900	44.79
増減額 (B - A)	△3,200	△1,400	△1,100	300	—
増減率 (%)	△7.0	—	—	18.8	—
(ご参考)前期実績 (C) (2025年3月期)	48,116	△1,292	△206	△281	△6.63
増減額 (B - C)	△5,316	△307	△793	2,181	—
増減率 (%)	△11.0	—	—	—	—

(2) 修正の理由

【営業利益の減少要因】

電子機器事業では、構造改革や固定費統制の効果があったものの、主として複合モジュールにおける在庫関連損益の悪化や品種構成悪化の影響を受けました。

生産器材事業では、適正売価政策の効果があったものの、主力の韓国市場での自動車・家電向けの低迷や競合との価格競争などに伴う操業度悪化や貸倒引当金の増加などに加え、国内市場でも自動車関連市況の回復遅れ等による操業度悪化の影響を受けました。

このような当中間連結会計期間の状況を踏まえ、第3四半期連結会計期間以降も電子機器事業では、主と

して複合モジュールにおいて顧客需要の減少に伴う減収による操業度悪化や品種構成悪化が継続し、生産器材事業でも国内・韓国市場での市況低迷の継続や韓国市場での競合との価格競争影響により操業度が悪化する見込みであることから、通期の営業利益は減少する見通しです。

【経常利益の減少要因】

円安による為替差損の縮小などによる改善を見込むものの、営業利益の減少により、経常利益は減少する見通しです。

以上のことから、2025年5月12日に公表いたしました2026年3月期通期の連結業績予想を修正いたします。なお、第3四半期連結会計期間以降の為替レートは1米ドルあたり150円を想定しています。

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手している情報を合理的であると判断する一定の前提に基づいて算出しており、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、当社製品の需給の急速な変動、米ドルを中心とした対円為替相場の変動および日本の証券・株式相場の変動など様々な要因により異なる場合があり得ることをご承知ください。

2. 営業外収益の内容

当中間連結会計期間において、当社および連結子会社の銀行預金利息等の受け取りにより、293百万円を受取利息として営業外収益に計上いたしました。

3. 営業外費用の内容

第1四半期連結会計期間において、為替差損681百万円を計上しておりましたが、その後の為替相場の変動により当第2四半期連結会計期間において、為替差益332百万円を計上いたしました。その結果、当中間連結会計期間において、為替差損349百万円を営業外費用に計上いたしました。

なお、本金額は当第2四半期末時点での為替相場により算出したものであり、今後の為替相場の状況により変動する可能性があります。

4. 特別損失の内容

電子機器事業および生産器材事業において、事業環境および今後の見通しを勘案し、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討いたしました。その結果、固定資産の一部について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当中間連結会計期間において、237百万円を減損損失として計上いたしました。

以上